

ところざわ倶楽部（サークル 野老澤の歴史をたのしむ会）

活動報告 「武蔵野三十三観音霊場巡礼 第4回」

記 10-6 小川 雅愛

- 実施日 2024年10月3日(木) 参加者24名 歩行距離 約5.5キロ
- 行程 小手指駅南口9:00集合⇒バス乗車9:20北野天神前下車⇒全徳寺(12番)9:30～9:50⇒小手指まちづくりセンター休憩10:10発⇒普門院(11番)10:55～11:40⇒新光寺(10番)12:00～12:10⇒實蔵院(9番)12:15～12:30 院内で解散

10月初めにも拘わらず前日は真夏日、本日10月3日は一転して気温は急降下、あいにく小雨が時折ぱらつくが歩くには格好の気温のなか24名もの会員が参加する4回目となった。長蛇の列とならぬように2班に分かれて進み、交通量の多い幹線道路をなるべく避け、裏道で最短距離を選んで巡礼した。所沢市内の当観音霊場は7寺院で今回はそのうちの所沢市内の中心部の4寺院とした。

なお、解散は昼食場所の選択肢の多い旧市街とし、巡礼順は通常の札所番号にこだわらずに設定した。

第12番 梅林山 全徳寺

小手指まちづくりセンター裏手の六ツ家川に沿った小道を西に進むと、小高い丘にある全徳寺に数分で着いた。比良の丘からも入母屋造りの本堂がみえる寺である。正面の山門で禅にゆかりの達磨大師の行跡・故事に思いをはせる。門の付近には山号を象徴する蟬梅の木が数本みられる。永禄年間に周辺の無住の寺院を統合して創建されたが、その第13世の住職は「ところざわ歴史物語」記載の在郷の絵師として名高い雲溪であり、梅墨画を得意とした。雲溪の描いた梅と太陽をモチーフとした梅墨画のレリーフの石造物を全員で観賞する。本堂の左手にある観音堂のあたらしく造像された普悲観音にお参りする。本体は本堂内に安置されているが窺うことはできない。



美しい入母屋造りの全徳寺本堂

第11番 上洗山 普門院

小手指まちづくりセンターに戻り、しばしの休憩、小手指カメラクラブの展示写真を観賞する。ここからが行程で一番距離があり、約40分間幹線道路を避け裏道を2班に分かれて歩く。

普門院には裏の墓地から門前に到達した。本日は住職さん不在であったが、下見でのお話のようにご好意で本堂内と隣接して近年建造された観音堂を御開帳していただき、金ぴかの大きい千手観音像を観音堂内部で間近に拝礼することができ感動した。この千手観音は東川の三ツ井戸付近から発見され、当寺に安置されたと伝えられている。観音堂の南は広い円形の茶畑になっていて周囲に白の真新しい33観音像が配置されている。これはゆっくりと巡拝できなかったが、一回りすれば西国33観音巡礼と同じ御利益があると思われる。再び門の前に戻り左手の千手十一面観音像と六地藏尊に拝礼する。門を入るとすぐ左手には老夫婦の佇むボケ除け地蔵尊があり、それぞれでしっかりとお参りした。この地蔵尊は京都の某所の格式の高い、霊験あらたかな像であると聞く。さらに関係者以外は拝観することが難しい本堂のご本尊の不動明王像も正面の扉を開いていただき拝むことができ感謝、感激であった。門を出て、幹線道を横切り、細い道を東川に向かって進む。川の側の道をしばらく進むと六所神社の前に出る。神社の境内には観音堂と遊園地があるが、これも普門院の寺領とのこと。寿量無量の御利益があるといわれる三ツ井戸の水、山号上洗山は井戸や東川に結びつきを感じる。



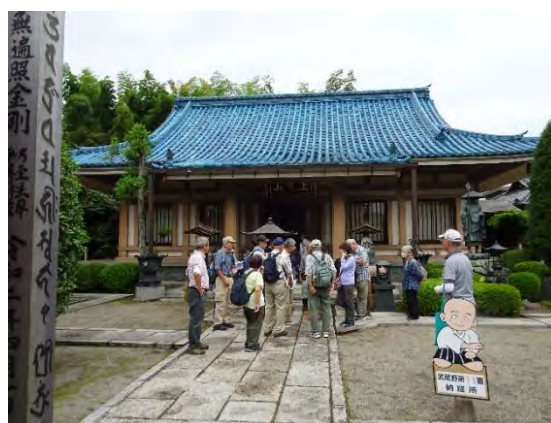
普門院 観音堂



普門院 茶畑を取り巻く三十三体変化観音像



ボケ除け地蔵尊（手前老夫婦像）



ご本尊 不動明王像を拝観

第10番 遊石山 新光寺

東川に沿う横道を通り抜け竜宮城を思わせる門に到達した。寺に入る前に以前入手した「えがかれた江戸時代の所沢」(絵地図)の野老澤村家並と見比べて、鎌倉街道や東川に架かる橋、新光寺、實藏院が江戸と現在でどう変わったか確認する。直ぐ近くの生まれのSさんの明解な説明に納得する。かつては鎌倉街道が2寺院のそばを通り、新光寺の観音堂が名所であったことがわかる。現在の観音堂は昭和40年(1960)に法隆寺夢殿を模した朱塗りの八角円堂様式で建立された。その前のあたらしい聖観音像、右手の本堂内に行基菩薩作のご本尊聖観音が祀られているが普段は拝観できない。江戸期は馬次の宿であった関係か、馬の町として当寺では「馬のまつり」の催しが行われてきた。

第9番 野老山 實藏院

すぐそばの實藏院はかつて三八市の行われた門前の通路から入る。中心街にありながら閑散とし、門内には今が盛りの彼岸花が咲いていた。正面が本堂、本堂の右手前には大きな聖観音銅像が立っている。横手は旧鎌倉街道で、そこを上ると墓地となる。当寺院の檀家でもあるSさんの案内で歌人三ヶ島葎子の墓に詣でることにした。倉片家の墓標の立つ一角であるようだ。はっきりとは確認はできなかったが周辺でお祈りした。墓地周辺は微高地になっており、所沢市街はこの近くまで起伏が多く、昔から水が得にくく、深井戸に頼ったのは納得できる。また、所沢の寺院の多くは江戸の影響よりむしろ多摩地域の寺院の影響が強いと講義で聞いた覚えがあるが本日巡った全徳寺は日の出町の宝光寺の大和尚が開創した事、また、實藏院は青梅成木の安楽寺との関連(新編武蔵風土記稿に記載)などからそうではないかと想像を逞しくした。



實藏院 案内役Sさんより説明をうける

解散は實藏院墓地出口で予定した時間より30分遅くなったが、よく知っている寺の巡礼にも拘わらず参加して満足していただいた巡礼になったと思う。昼食はすぐ近くのサイゼリアに参加者の過半数が集い、それぞれ親睦を深めた。

写真撮影 : 大館徹 小川雅愛

活動担当者: Aグループ 山田武 曾部康子 大館徹 小川雅愛